

## 第2回 阿賀野川大規模氾濫に関する減災対策協議会 議事概要

1. 日 時：平成28年6月24日（金）15:00～16:15

2. 会 場：新潟市秋葉区文化会館 練習室1

3. 出席者

### ■構成員

新潟市長 篠田 昭（代理：危機管理監 若杉 俊則）

五泉市長 伊藤 勝美

阿賀野市長 田中 清善

阿賀町長 神田 敏郎（代理：副町長 波田野 正博）

東北電力（株）会津若松支社長 千葉 正宏（代理：部長 山形 宏文）

新潟県新潟地域振興局地域整備部長 原山 茂

新潟県新発田地域振興局地域整備部長 吉田 茂（代理：副部長 高橋 忠栄）

新潟県新津地域整備部長 棚橋 元

新潟県津川地区振興事務所長 関 秀明

新潟地方気象台次長 橘 薫

阿賀野川河川事務所長 石川 俊之

### ■オブザーバー

新発田市地域安全課長 馬場 政雄

北陸地方整備局河川部水災害対策専門官 浮田 博文

4. 議 題

(1) 幹事会の報告について

(2) 「阿賀野川流域の減災に係る取組方針（案）」について

(3) その他

## 5. 議事概要

### (1) 幹事会の報告の確認

- ・第1回協議会以降の2回の幹事会について報告し、確認した。

### (2) 阿賀野川流域の減災に係る取組方針（案）の確認

- ・目標達成に向けた「阿賀野川流域の減災に係る取組方針（案）」について確認し、了解を得た。

### (3) その他

- ・本協議会に参加し取組方針に関する意見など

### 【構成員からの主な発言】

#### <新潟市>

- ・100年～150年に一度の水害でも浸水深さ、時間など、垂直か水平かなど、避難計画が困難なところ、さらに1000年を想定した避難計画が加わるとなると、どういう避難計画を作るべきなのか苦慮している。
- ・避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成ガイドラインでは、最大想定に対する記載が概略的であり、具体性をもった書き方に近づけて頂けるようお願いしたい。
- ・避難情報等を市民へ下ろしていく市町村としては苦労があると思うが、今後5年間の流域各機関と協力してやっていくべき事項が示されたのはとてもよい。

#### <五泉市>

- ・五泉市では、阿賀野川のほか、市内を流れる早出川での決壊に危険を感じており、タイムラインを精査しながら避難計画を考えていかななくてはならない。
- ・このたびの九州の地震災害、その後の水害に対し、数万人規模の避難勧告、避難指示が出ている。五泉市に同様の状況が生じた場合の対応について危惧しており、九州へ職員を派遣しているということもあり、今後の対応に活かしていきたい。
- ・市では数日後に災害対策本部の立ち上げ訓練を実施予定である。洪水時には気象庁、県、国の情報をいただきながら状況を予測しつつ対応していきたい。

#### <阿賀野市>

- ・市内には中小河川が多くあり、これまでの水害事例では同時に被災というのはあまりなかったが、1000年に一度の災害では阿賀野川と合わせて中小河川も氾濫すると思われる。そのときの避難誘導に対する議論が無かったと思う。
- ・阿賀野川のほか、安野川、折居川のような中小河川が同時に破堤した際の防災、減災対策に取り組んでいかななくてはならないと考えている。

#### <阿賀町>

- ・町では特に過疎、高齢化が進んでいる中で、いかに地域の安全、安心を確保できるか、関係機関が連携して流域全体で取り組むことが重要と考えている。
- ・平成 23 年度の新潟・福島豪雨では町内でも相当な被害が出たが、揚川ダム下流での築堤工事が進み、外水氾濫への備えができた。一方で、築堤後の上流ダム放水量と河川水位との相関関係の検証ができていないことから、洪水時の避難判断の面で課題がある。
- ・協議会を通して、各機関の取り組みの方向性が明確になったので、各機関が連携して、地域の安全対策を前進させていくことが大事である。

#### <東北電力（株）>

- ・阿賀野川水系で 11 のダムを管理しているが、災害の未然防止のため、操作をする社員（人材）の教育、訓練を確実にすすめ、人材育成に努めていきたい。
- ・減災対策の取り組みとして、既にホームページにてダムの放流量等を公開しているが、今後一般へ向けたわかりやすいものへ改良し、PR していきたい。
- ・ダムの操作、役割についても同様に、市民へ理解されるよう出前講座等の活動を行っていく予定である。

#### <新潟県>

- ・県では従来からの阿賀野川本川の改修等ハード対策を引き続き推進し、あわせて危機管理型のハード対策も今後導入を検討していく予定である。
- ・重要なのはソフト対策であるが、自らの命を守る行動を日ごろから考えてもらえるように住民の皆さんの意識を変えていただくための取り組みを具体的に整理できたと考えている。
- ・県としては水位情報等の避難情報を的確に提供できるよう、検討を進め、住民の安全、安心、生命、財産の確保に県としての役割を果たせるように一層努めてまいりたい。

#### <新潟地方气象台>

- ・広島の土砂災害時の降雨等、雨の降り方が近年変わってきている。気象衛星の打ち上げによって、従前のデータ観測量が飛躍的に大きくなると思われるが、予想の精度は急には上がらないため、長期的な視点で考えている。
- ・短期的には気象警報文を危険度に応じて色分けし、視覚的に把握しやすい情報で提供する試行中であり、防災情報提供システムで提供している。なお、平成 29 年度から本運用する予定で、気象庁ホームページで提供する。
- ・1/1000 の降雨が生じた場合、数日にまたがったの降雨となるであろうから、その際は正確な適切な防災気象情報を提供していきたい。

<阿賀野川河川事務所>

- 本協議会により検討材料は整ったため、今後 5 年間かけて関係機関がこれをどう活かしていくのかを考えたい。
- 今回見直した最大想定降雨時の浸水図では、新潟市江南区では完全に浸水し、阿賀野市では浸水深 8m もの箇所が生じる。発生確率が低い洪水時の対応の他、万が一の洪水時の対応をそれぞれ決めておくことが重要である。
- 本協議会は、北陸では初、全国で 8 番目（129 協議会中）であり、まさにこれから全国的に検討が本格的に進められていくことになる。取り組みを少しでも前に進めて死者を出さないという立場にたち、構成員の皆様と連携を密にし減災に向けて取り組んでいきたい。

以上をふまえて、協議会構成員で協力して取組方針を実施していくことを確認した。

以上